

# 理解するのが難しいタイ人気質

● 放 眼 日 中



コラムニスト・アジアソウオッチャー  
須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。

中国の旧正月、春節。タイのバンコクにも多くの中国人がやって来た。中には遥か雲南省からラオスを経由してタイ北部に入り、そこから南下して2日ばかりで来た人達もいた。またバンコクの空港でレンタカーを借り、気ままに旅を楽しむ中国人夫婦もいたと聞く。最近の中国人の旅は実に多様であり、日本で報道される「爆買」観光客は、実は組織的、または一部の運び屋であろうことが、バンコクにいれば想像できる。

友人の中国人も日本の地方都市からやって来た。彼はとても優秀な頭脳を持っているが、3日間行動を共にしていると、「あれ？」と思うことがいくつもあった。例えば繁華街の道を横断する時、まるで日本人のように車が来なくなるまで渡らないし、屋台で商品を値切る時も何とな

く中途半端だった。もちろん本人の性格かもしれないが、ついに「いつからそんなに日本人みたいになったの？」と聞いてしまうほどだった。当の本人も自覚はあるようで、大笑いになったが、実はあまり笑えない。「日本人は生命力が弱い」といった図式が頭をよぎり、「このままでは中国に帰れなくなる」と嘆く。その彼と、タイ在住20年を超える日本人経営者を訪問した。この会社の本業である人材紹介に関連して、「タイ人とはどのような特徴を持つ人なのか？」という質問から議論が白熱した。まずは「サバイ（気持ちがいい）、サヌック（楽しい）、サドゥワック（便利で快適）」、何と云ってもタイ人は自分が気持ちよく働けなければ、すぐに辞めてしまう。中国人の独立心、金儲け第一の起業家

精神とは全く異なる。人に使われたくないから、やむなく起業するといふ受け身の発想がタイ人の特徴だと聞き、なるほどと頷く。だから、雇われ社長も極端に少ないらしい。自分が社長になれば、本業はきちんとして、それ以外に自分のやりたいことが見つければ、それも始めてしまうのがタイ人気質。ところが日本では、それは規律違反であり、すぐにトラブルになるといふ。タイで現地化、特に経営トップをタイ人にするのは意外に難しい。これは中国と共通する項目だ。また、タイ人は上下関係を重視する、ということを知って聞いた。初対面の腹の探り合い、そしてどちらが上かが決まり、それから物事が進んでいくという。中国人も初対面の相手とは宴会の場などで探り合いを